

## 目次

- はじめに—Kobyとらうニックネームで始まった小児科医人生——5
- なぜ、医者に、そして小児科医になつたか——13
- 三等留學生の医師、アメリカでインターン生活を始める——21
- 厳しくて楽しかったアメリカのインターン生活——29
- 一般病理学を学びながらアメリカ生活を楽しむ——37
- 小児科医をめざして、子ども病院で小児病理学を学ぶ——45
- シンシナティで学んだ小児科学の歴史的展開——53
- アメリカ生活をまとめて東大小児科に帰る——61
- 帰国して東京大学小児科で働き始める——69
- ロンドンの子ども病院で腎疾患の免疫病理を研究する——77
- ロンドンで学んだ免疫学とともに帰国の途につく——85
- 東大小児科で診療を再開し、国際小児科学会議の準備を手伝う——93

東京で I C P が開かれる——101

東京 I C P は、アジアの小児科学会も活性化した——110

東大紛争の中、高津忠夫教授のあとを継ぐ——118

東大新小児科の嵐の船出と世界の医学教育の視察——127

学生教育と医学研究の事始め——135

小児科学のソフトな研究を追って——2人の偉大な女性研究者との出会い——144

I P A (国際小児科学会)に招かれて役員を務めた12年間——153

I P A (国際小児科学会)役員として訪れた中国、ポーランド、

ソビエト連邦(現ロシア)、シベリア、アフリカなど——162

私に子ども学を教えてくれた北欧3国——170

「子ども学」事始め——まず女子大で講義する——178

「子ども虐待防止」のお手伝い——187

子どもたちに優しい社会をつくろう——195